

着せ綿



河原 多恵子 (かわはら たえこ)
アナウンサー

岩見沢市生まれ。北海道女子短期大学体育科を卒業し、北海道放送(株)へアナウンサーとして入社、以降、数々の番組を担当。ラジオ制作プロデューサーを経て、現在は、HBC-R「多恵子の今夜もふたり言」パーソナリティー。番組では毎週様々な分野からゲストを迎えてインタビュー。大人のトーク番組として聞かれている。趣味は運転・旅・本、街歩き、美術館めぐり。画家・片岡球子のファン。

バス停に立っている時、公園や通りを歩いている時、早朝カーテンを開けた時、この季節特有の光と影の風景に見とれることがあります。上質のレースや刺繍のように繊細な模様が描かれていたり、バティック^{ししゅう}*風、カンボジアの伝統影絵芝居スバエク、あるいは切り絵の世界への入り口であったりもします。北海道の晩秋は本当に美しいですね。

なでしこ

さて、2012カレンダーや手帳のリフィル、おせち料理など「来年」が目立つ時季になりました。3月には東日本大震災が発生、夏に相次いだ台風被害と災害が頻発した今年。一刻も早い被災地各地の復興を願わずにはいられません。重く不安な気持ちが続く一年だったような気がします。そんな中で、女子サッカー・なでしこジャパンの活躍が日本に元気をくれました。なでしこジャパンがきっかけになってスポーツを始めた女の子がいます。自分の夢に向かってズンズン進んで行ってもらいたいものです。そして、女子アスリートを取りまく環境がもっと整備され、今後の活躍につながるようにと期待するひとりです。

野にあるように素朴で控えめな風情、撫子の花も人気になりました。私も買ったりいただいたり。ある時の撫子は淡いピンク色が可愛いブーケ。添えられたメッセージには「カワハラナデシコ(河原撫子)頑張れ!」とあります。撫子は、大和撫子という言葉があるように、昔から女性の清楚な様子や美しさを形容するものとして用いられてきました。しかしこれからは、「快活で勇敢、何ごともあきらめない、スックと立つ女性をあらわす」。こんな意味を持つ言葉として使われていきそうですね。なでしこブームにあやかり、こっち方向にも運気を呼び込みたいものです。我が家の庭には、確か濃いピンクの花があったことを思い出して、「どこに植えてあったっけ?」と家族にたずねると・・・。「それが消えちゃったみたいなのよ〜」。こんなことがあるのでしょうか?もしかすると、庭仕事

* バティック (Batik)
インドネシア・マレーシアのろうけつ染の布地。ジャワ島のものが有名なためジャワ更紗とも呼ばれる。

を手伝った際、勢い余って抜いた「あれ」だったのかもしれない？

着せ綿

はじめて聞く言葉に感動、その意味を知ってますます感動。これを誰かに伝えなくては・話さなくてはと考えるお節介さを持ち合わせています。ただ、これだからこそ言葉の仕事がつとまっているのかもしれませんが（笑）。先日、買い物中のこと、健康グッズコーナーで「い・た・き・も・ち・い・い〜」という元気な声が聞こえて振り向きましました。女子高生数人が何かを試している様子です。「いたきもちいい」は「少々痛いけれど気持ちが良いので好ましい」という意味。漢字にすると「痛、気持ち良い」。言葉を縮めたりとばしたりすることに積極的ではありません。しかし、それを忘れ、彼女たちの絶妙なひと言に納得する瞬間でした！

ところで、「菊の着せ綿」という行事をご存じでしょうか？

不思議な菊の姿に出会って以来、菊まつりや品評会が行われる今頃になると思いだす言葉です。「後の雛まつり」という行事に参加したときのこと。

なんでも江戸時代には、秋、重陽の節句にも雛まつりをする習慣があったのだそうです。元禄雛、享保雛、江戸雛など数々の雛人形を拝見する会場には、大輪、一本仕立ての菊が飾られ秋の雛を彩っています。しかし、肝心の花の部分には隠れ、赤や黄の真綿で覆われているのです。真綿が被された菊の花。これが平安時代の行事として始まった「菊の着せ綿」だと知りました。その意味とは？

旧暦の9月9日は重陽の節句と呼ばれ、その前夜、菊の花を真綿で包んで夜露と香りをためる。翌朝、夜露をたっぷり含んだ着せ綿で顔をぬぐうと若さや健康を保てると信じられていた。今ならさしずめ、天然の香り高いバラを原料にしてつくられた高級美容クリームになるのでしょうか？当時、綿そのものが貴重品、

したがって着せ綿はとても高級なものだったそうです。長寿の願いが込められた行事「菊の着せ綿」。紫式部日記や枕草子などの古典に多く登場するというので、しばらくは古典に夢中でした。歌集『紫式部集』には、「菊の花 若ゆばかりに袖ふれて 花のあるじに 千代はゆづらむ（長生きはあちらのかたに、私はちょっと若返れば）」。その時代に思いをめぐらすと……。人間、いえ、女性の願望はいつの世も変わらないという結論に行きつくのです。季節の慣わしを言葉で知り、魅せられています。

余談になりますが、我が家には広くない庭があつて、花や野菜、実のなる木までが自由闊達に並んでいます。その中には何種類か菊の花も。早朝、切り花にして家の中に持ちこんだ菊の花。水揚げをしようとして動かすと、夜露、朝露がハラハラ落ちて手元足元を濡らしました。この瞬間にも、もっと早く菊の着せ綿のことを知っていたならと欲張った私です（笑）。

伝統と季節を重んじる和菓子に「着せ綿」という名の練り切りがあります。

菊をかたどった紅い花の上に、白いフワフワとした綿がのった愛らしい茶菓子です。



着せ綿